(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第5250239号
(P5250239)
(45)発行日　平成25年7月31日(2013.7.31)　(24)登録日　平成25年4月19日(2013.4.19)

(51)Int.Cl.　F I
A45D 40/26 (2006.01)　A45D 40/26

請求項の数 10　外国語出願　(全 7 頁)

(21)出願番号　特願2007-288600 (P2007-288600)
(22)出願日　平成19年11月6日 (2007.11.6)
(65)公開番号　特開2008-119466 (P2008-119466A)
(43)公開日　平成20年5月29日 (2008.5.29)
審査請求日　平成22年11月4日 (2010.11.4)
(31)優先権主張番号　06023328.5
(32)優先日　平成18年11月9日 (2006.11.9)
(33)優先権主張国　欧州特許庁 (EP)

(73)特許権者　502393877
ゲーカ　ゲーエムベーハー
ドイツ　９１５７２　ベヒホーフェン　ヴァイツェンドルフ　３
(74)代理人　100091867
弁理士　藤田　アキラ
(72)発明者　カール　ハートシュトック
ドイツ連邦共和国　デー・９１５２２　アンスバッハ　プロメナーデ　１５
(72)発明者　ダニエラ　クーリク
ドイツ連邦共和国　デー・９１５５５　フォイヒトヴァンゲン　シュピタールシュトラーセ　４

最終頁に続く

(54)【発明の名称】唇化粧品用アプリケーター

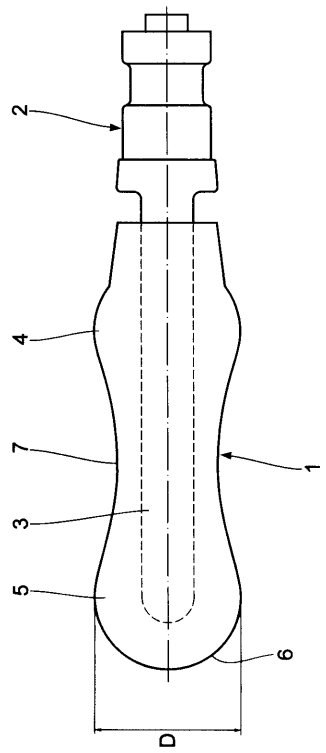
(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
唇化粧品用容器に備えられ、かつ、発泡プラスチックから成る唇化粧品用アプリケーターにおいて、アプリケーター（１）が、二つの球形で、外に向かって円形である末端部（４，５）及び、凹形の中央部（７）を有し、基部から遠い末端部（５）の直径が、基部から近い末端部（４）の直径よりも小さくなっていることを特徴とする、アプリケーター。
【請求項２】
アプリケーター（１）がピーナツの殻の形状を有していることを特徴とする、請求項１に記載のアプリケーター。
【請求項３】
アプリケーター（１）が発泡プラスチックから成ることを特徴とする、請求項１に記載のアプリケーター。
【請求項４】
アプリケーター（１）がポリウレタンフォームで作られていることを特徴とする、請求項２に記載のアプリケーター。
【請求項５】
アプリケーター（１）が、射出成形プロセスにおいて製造されたコア（３）を備えていることを特徴とする、請求項１に記載のアプリケーター。
【請求項６】
コア（３）がポリアミドから成ることを特徴とする、請求項５に記載のアプリケーター

。
【請求項７】
発泡材料がコア（３）の外側に接着し、その際に、発泡材料の端が上記コア（３）の外側に熱接着されることを特徴とする、請求項５に記載のアプリケーター。
【請求項８】
コア（３）が、発泡体のチップ（６）付近において、発泡体から突き出ることを特徴とする、請求項５に記載のアプリケーター。
【請求項９】
アプリケーターが扁平に構成されていることを特徴とする、請求項１に記載のアプリケーター。
【請求項１０】
容器（１０）、アプリケーター（１）を保持する棒（１２）が固定されたキャップ（１１）、及び、二つの球形で、外に向かって円形である末端部（４，５）及び、凹形の中央部（７）を有し、基部から遠い末端部（５）の直径が、基部から近い末端部（４）の直径よりも小さくなっているアプリケーター（１）を容器（１０）から外す際に余分な化粧品をふき取るためのワイパー（１４）を備えて構成される化粧品ユニットにおいて、
上記ワイパー（１４）が、アプリケーター（１）を外す際に、中央部分（７）ではなく球形の末端部（４，５）をふき取るような寸法の、自由開口部を有することを特徴とする、化粧品ユニット。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本願発明は、発泡プラスチックから成る、唇化粧品用アプリケーターに関する。
【背景技術】
【０００２】
一般的なタイプのそのようなアプリケーターは、特許文献１から公知である。この公知のアプリケーターは、チップ（先端部）と、中央部が湾曲した縦軸を備えた、実質的に円錐形の基本形状を有している。上記チップは、アプリケーターが、唇の輪郭を描くために使われることを可能にする。
【０００３】
【特許文献１】ＥＰ　０７２８４２６
【特許文献２】ＥＰ　１０５３６９５Ｂ１
【特許文献３】ＥＰ　０６６３１６１Ｂ１
【特許文献４】ＥＰ　０７９２６０３Ｂ２
【０００４】
フロック塗り(flock coating)をもたらし、かつ、縦軸方向に見た場合に湾曲又は屈曲しているかもしれないアプリケーターは、特許文献２から公知である。
【０００５】
特許文献３及び特許文献４は、瞼上のまつげ配列の形状と同様の、凹形の中央部を備えたマスカラブラシを記載している。
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００６】
本願発明の課題は、唇の輪郭にアプリケーターが最適に合致していることを保証する一方で、アプリケーターが容器から外された場合及び、ふき取り装置を通過する際に、アプリケーターに（唇化粧品が）ふき取られない唇化粧品用リザーバを備えたアプリケーターをもたらすことである。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
この課題は、二つの球形で、外に向かって円形である末端部、及び凹形の中央部を有す

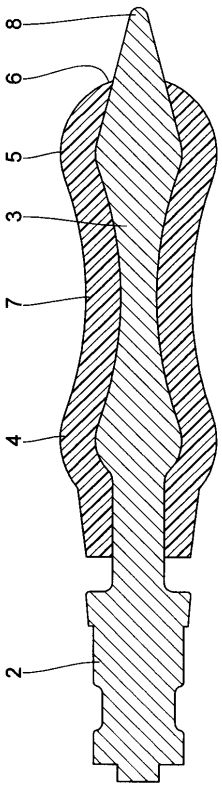
るアプリケーターによって成し遂げられる。
【０００８】
よって、上記アプリケーターは、概ねピーナツの殻の形状を有している。
【０００９】
通常、棒に装着されているアプリケーターを唇化粧品の塊から取り外す際、少なくとも凹形の中央部の部分はふき取られない、即ち、唇に塗布されるべき化粧品の所定量は残っている。この量の化粧品は、それから、実質的に垂直に唇に沿ってアプリケーター棒を動かすことによって唇に塗布され、それによって、凹形の中央部は唇の輪郭についていき、従って球形の末端部間で唇全体が化粧品によって均一に覆われることを確実にする。
【００１０】
アプリケーターは、好ましくは発泡プラスチックから、特にポリウレタンフォームから成る。
【００１１】
射出成形プロセスにおいて製造され、特にポリアミドから成り、構造を安定化し、かつ、棒ソケットをもたらすようなコアを有するアプリケーターをもたらすことができる。
【００１２】
発泡材料が、有利にはコアの外側に接着し、その際に、前記材料の端部はその上に熱接着される。
【００１３】
ピーナツの殻形状をしたコアの本体は、錐台部分によって接合することができる。
【００１４】
更に、コアは、最適な輪郭描きをもたらすように、発泡体のチップ付近において、発泡体から突き出るようにもたらすことができる。
【００１５】
このゴールは、基部に近い末端よりも遠い末端において、より小さい直径をそなえることによっても成し遂げることが可能である。
【００１６】
アプリケーターは平板にすることが可能である、従って、平らな側は塗布用に、かつ、細い側は輪郭描き用に使用することが可能である。
【００１７】
有利には、アプリケーターは少なくとも二つの異なる種類の発泡プラスチックで構成され、それらは相互に連結されているが、色、及び／又は厚み、及び／又は孔の数、及び／又は孔の大きさにおいて異なっている、ようなアプリケーターをもたらすことも可能である。
【００１８】
発泡プラスチックは、孔をあけるために再処理される（網状にされる）こともできる。
【００１９】
更に、本願発明は、容器、アプリケーターを保持する棒が固定されたカバー、アプリケーターを容器から外す際に余分な化粧品をふき取るワイパー、上記ワイパーはアプリケーターを外す際に、中央部ではなく、球形の末端部をふき取るような寸法の自由開口部を有するように意図されているワイパーを備えて構成する化粧品ユニットに関する。
【００２０】
次に図と関連しながら、本願発明は好ましい実施形態によって詳細に記載される。
【発明を実施するための最良の形態】
【００２１】
図に示されたアプリケーター１は、棒ソケット２に備えられている。射出成形プロセスにおいて製造される棒ソケット２は、ポリアミド（グリルアミド）から成り、かつ、アプリケーター１の内部に延在することによってコアを形成している。
【００２２】
ポリウレタンフォームは、コア３の外側に接着し、かつ、端部においてそれと共に熱接

着される。
【００２３】
アプリケーター１はピーナツの殻の基本形状を有し、よって、内側の球形の末端部４、実際に円形チップ６を形成する、外側の球形の末端部５、及び、凹形の中央部７を備えて構成している。
【００２４】
球形の末端部４，５は、それらの外径Dが、ワイパーの内径よりも、約１／１０ｍｍ小さく構成されている。
【００２５】
よって、アプリケーターが、唇化粧品を含む容器からワイパーを通って外される場合に、凹形の中央部７についている量の化粧品は、実質的にそこに残る。唇に沿ってアプリケーターを動かすことによって、それが唇に塗布されるが、アプリケーターの中心縦軸は唇の長手方向に対して実質的に垂直である。アプリケーターの円形チップ６は、必要ならば、局所的に化粧品を塗る、又は、輪郭を描くために使われうる。
【００２６】
図２及び図３に示された実施形態において、コア３のチップ８は、発泡プラスチックの円形チップ６を突き抜けており、それによって、特に厳密な輪郭を描くことが可能になる。
【００２７】
図４及び図５に示された実施形態では、末端部５の直径は末端部４のものよりも小さく、それによって、更に厳密な塗布をも可能にする。
【００２８】
図６、及び図７は、回転対象でない実施形態を示しており、特に図７において図示されたように、アプリケーターが平たくされ、この側面は化粧品を正確に塗布するために使われ、一方で広い側面は混合するために使用されうる。
【００２９】
図８は、化粧品を含む容器１０、及び、容器の首１２上にねじ留めされうる容器のキャップ１１を備えて構成される化粧品ユニット９全体図である。
【００３０】
棒１３はキャップ１１の内部に装着され、本願発明に係るアプリケーター１はその自由末端に配置される。
【００３１】
アプリケーター１のために貫通開口を備えて構成されるワイパー１４は、容器１０の開口部に備えられ、上記貫通開口の寸法は、移されるべき十分な量の化粧品がそこに残ることを確実にするために、中間部分７では無く、末端部４、５がふき取られるよう（な大きさ）になっている。
【図面の簡単な説明】
【００３２】
【図１】本願発明に係るアプリケーターの第一実施形態の側面図である。
【図２】第二実施形態の縦断面図である。
【図３】第二実施形態の側面図である。
【図４】第三実施形態の縦断面図である。
【図５】第三実施形態の側面図である。
【図６】第四実施形態の縦断面図である。
【図７】図６の位置の第四実施形態を９０°ずらした状態での縦断面図である。
【図８】本願発明に係るアプリケーターを備えて構成する化粧品ユニットの縦断面図である。

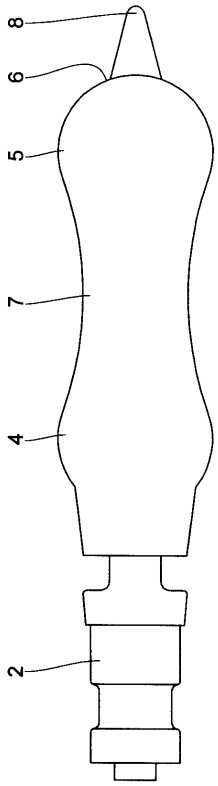
【図１】



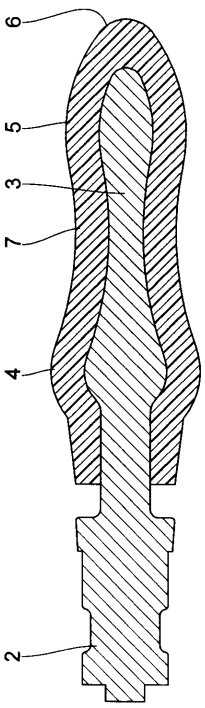
【図２】



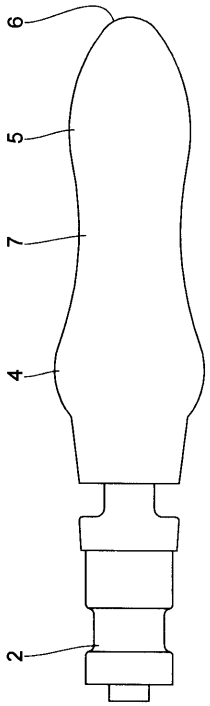
【図３】



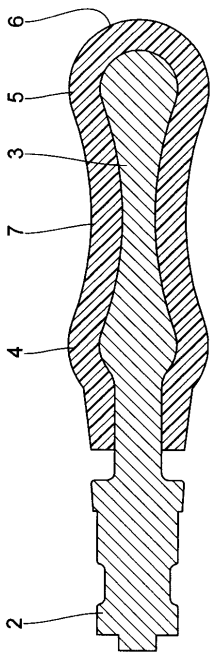
【図４】



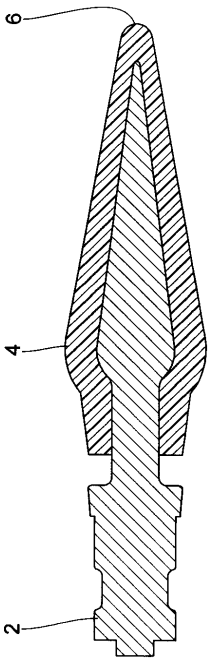
【図５】



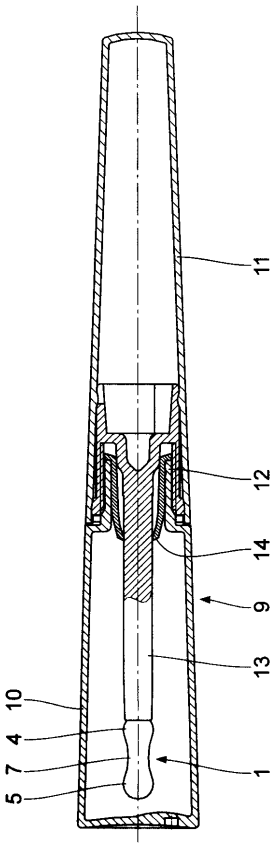
【図６】



【図７】



【図８】



フロントページの続き

(72)発明者　ハンス　デュルンベルガー
ドイツ連邦共和国　デー・９１５７２　ベヒホーフェン　ザックスバッハ　１０

審査官　大谷　謙仁

(56)参考文献　特開平１０－３２７９２９（ＪＰ，Ａ）
特開２００４－０００５８７（ＪＰ，Ａ）
特開平０１－２５４１０９（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ４５Ｄ　４０／２６